

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

やまなみ

日付 平成 20年 11月 10日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験6年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

設立して丁度3年経過したグループホームは、当初から見られたホーム全体の明るさが続いている。1年前に2ユニット目を増設して、現在は2つのユニットがフルに稼働しているが、このホームの特長は18人のホームと言っても良い位、ホーム長を軸に1つのホームとして元気に利用者もホームの生活を楽しんでいる。利用者の一人が何処かに行きたいと言えば、直ぐに実行するというフットワークの軽さだろう。そして回りの人を誘って出掛けて行く。病院に行く時に車を玄関につけると、他の利用者は直ぐに遊びに行くのかと思う位、外出出来る事を楽しみにしているようだ。利用者は2つのユニットに友人を持ち、何時でも行き交っている。ホーム長は「2つのユニットになって良くなりました。友達も増えて良かった」と言っている通り、利用者の生活行動で納得出来る。どちらの職員も両方の利用者を区別する事なく付き合っている。このような雰囲気から、利用者も職員も毎日が楽しい。

両ユニットの職員は総勢20人居て、昼間には3~4人の職員配置をしている。利用者に対し、少し余裕のある配置をしているので、外出等も積極的に利用者を誘う事が出来る。職員は30~40才代が中心で、20才代と50~60才代と利用者に対応出来ている。全体的に若い職員は孫のような存在で、利用者との関係に暖かさを感じる。職員の仲良しの雰囲気が利用者にも伝わり、ホーム全体が楽しい雰囲気を形成しているのだろう。

利用者のケアについては職員間でよく話し合っている。申し送りの時や30分間位の週1回の日勤だけのミーティングで一人ひとりの利用者へのケアや思いやり・気遣い等も話し合うそうだ。その中から、歩く事が不自由な人が杖無しで歩けるようになったり、歩ける楽しみから自然に外で散歩するようになった。何時も寝ている人が車椅子で過ごすようになり、自分の力で車椅子を自走してホームの中を移動するようになった人もいる。紙パンツの人がトイレに行き排泄出来るようになり、布パンツで過ごせるようになった。ホームの調理、洗濯や掃除の手伝いをするようになって、自分の生き甲斐を見出した人、何時も帰りたいと言っていたが着着き、表情豊かになり、皆と話をするようになった人もいる。このようにホームに入所してから職員の暖かいケアを受け、利用者同士の仲間になった事で、見事人間回復した人も多い。自分のしたくない事は格別する事なく、自分の好きな生活をして貰う事により、それぞれの人が人間味を加えていく姿を見ると、このホームの良さが理解出来る。

特に改善の余地があると思われる点

ホームの利用者と職員との関わりやホーム長以下職員の行動には申し分はないが、利用者の認知症になった原因の病気について、利用者一人ひとりの病気の進行に対する把握を医療機関と連携して実行する方法を考え、その病気の進行と介護計画及び記録が一体化して利用者のケアと生活に密着したものになるよう工夫していけると良いと思う。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：明るい笑顔で生活が落ちついて出来るホームにしたいと言う目標で設立され、具体的に4つの項目の理念があり、職員はその主旨を十分に理解し、日々のケアに実践しているので、理念の改善事項は必要ない。</p> <p>2、全体的に見て…：「利用者一人ひとりの生活リズムを大切に」「利用者の個々の人格を尊重する」「利用者の持っている能力を活かした生活をする」「地域との交流を盛んにして利用者が地域社会の一員として生活する」が理念の4項目の要約したものである。職員同士の明るさ、仲の良さから生まれる笑顔や活力は、利用者の楽しさを生み、利用者の気持ちを察知したら何事も直ぐ実行するフットワークの軽さはホーム全体の活力を湧き上がらせる。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：広い敷地に2つのユニットのホームが建ち、屋外及び屋内共にゆとりのある生活空間を形成しているため、改善すべき項目はない。</p> <p>2、全体的に見て…：ホームの共有空間はゆとりのあるスペースの中で利用者職員が仲良く楽しそうに過ごしており、両方のユニットの人達も行き来している。又外出は両方のユニットの人が一緒に出掛ける。前の空地には両ユニットの人が集まり、全体の団欒をしている。ホームの空間はハード面と人間の生活行動で作るソフトな空間両面で形成している。</p> <p>隣にはオーナーの建設会社の空地があり、そこで作った芋掘りと焼き芋をして、両ユニットの人達が楽しんでいた。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：利用者に対するケア及びホームのサービス提供についての方針は設立以来、利用者職員との関わり合いは一貫しているが、3年を経過した中で、ケアに関してはもう一歩踏み込んだ改良をしていきたいという意気込みを感じる。特に、介護計画と記録については様式も変え、その内容も定着してきたので、利用者の生活に密着した計画と記録に完成させて貰いたい。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者はどんな人でもリスクを負っている。そのリスクを少しでも軽減させる、リスクを軽くしてあげる等もグループホームのケアの重要な要素である。歩けない人を歩けるようにしてあげる。寝たきりになりそうな人を座の生活にしてあげる。車椅子の人が自走して行動範囲を広げる手助けをしてあげる。帰宅願望の高い精神的に不安定な人に落ち着きを持たせ、表情豊かな生活を取り戻してあげる。このような人間としての機能を元に戻す、つまり人間回復を実現させ</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ホーム長(管理者)、計画作成担当者、職員のチームワークは良く、仲の良い姿は利用者安心感を与え、利用者同士も仲が良い。そして日常業務に対する改善意欲があり、1ユニットから2ユニットになって規模が大きくなって、最初の方針や管理手法は全く変わりがなく、かえって人が増えた事が友達も増えて、利用者も職員も良かった。毎日が楽しいホームであり、運営体制を改善しなければならない所もない。</p> <p>2、全体的に見て…：ホーム全体の運営が効率的だと感じる。ケアについて、及び日常業務についての職員ミーティングと申し送りを見ても、現場でそこにいる職員同士でよく話し合って意思疎通を計っており、全体で長時間集まって話をする時間も短くて済ませる。その効果はホームの雰囲気と職員の動きを見ればよく理解出来る。</p>		